

新潟・大角地遺跡 (1)



(糸魚川)

所在地 新潟県糸魚川市大字田海字田海
調査期間 一〇〇五年(平17)九月～一月
発掘機関 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
調査担当者 加藤 学
遺跡の種類 遺物包含地

- 1 所在地 新潟県糸魚川市大字田海字田海
- 2 調査期間 一〇〇五年(平17)九月～一月
- 3 発掘機関 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 4 調査担当者 加藤 学
- 5 遺跡の種類 遺物包含地
- 6 遺跡の年代 繩文時代・古墳時代・古代・中世・近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

大角地遺跡は、新潟県最西端の糸魚川市に所在する。北を日本海、南を日本アルプスに挟まれた狭小な糸魚川平野には、縄文時代～中

世の遺跡が密集する。遺跡は姫川左岸の青海地区に位

置し、海岸線から五〇〇m
内陸の舌状台地先端部(標高約五m)に立地する。糸魚川は、古代では越後国頸城郡沼川郷に所属した。陸路・海路の要衝であり、北陸道と信州に抜ける松本街

道の交点にあたる。「延喜式」に見える北陸道「滄海駅」は、本遺跡が所在する青海地区に比定されている。

遺跡からは、縄文時代・古墳時代・古代(九世紀)・中世(一五世紀)の遺構・遺物を検出した。特に、縄文時代早期末葉～前期前葉に玦状耳飾・玉・磨製石斧が大量生産されたことで注目されている。木簡は、台地裾の低地(三区)に堆積するⅡb層から、一八一九世紀の肥前系陶磁器などとともに一点出土した。報告書には掲載されていない資料である。

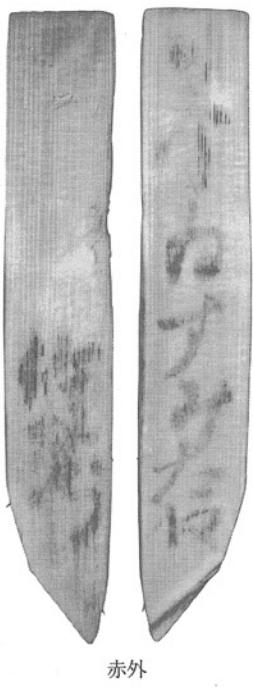
なお、他に川跡S-X-101(1区)の洪水堆積物(砂礫層)から、九世紀の須恵器・綠釉陶器とともに荷札状木製品が一点出土している。スギ材で、片面がより平滑に削られている。上流から流れ着いたものと判断される。綠釉陶器は優品であり、近隣に有力な古代の遺跡が存在することを示唆している。

8 木簡の篆文・内容

(1) 「[] ゐすみた [] 〔様カ〕」
・「[] 」

133×23×6 051

下端付近で右辺から切り込んで尖らせる。木簡と同じ層からは、古代～近世の遺物が出土しているが、木簡の成形が粗雑である」といなどから、近世以降の木簡と考えられる。



表面の冒頭部分だけ特に墨痕が薄く文字数も不明。他の墨痕は残存具合もよく、「ゐすみ」は肉眼でも墨痕を確認できる。最後の一文字は若干墨痕が薄いが、赤外線写真では明瞭。裏面は下端部付近に墨痕が確認される。一文字目が人偏と思われるが、二文字目以降は文字数も確定できない。ただし、裏の下端に向けて長く垂れ下がる字形は、「某兵衛」の可能性が高いと推測される。

「ゐすみた」を人名と考え、何らかの物品などに付けられて送られ、裏面にはその差出人が記載されたと推測する。ただし、管見の限りでは近隣の近世村落に関する人名で「ゐすみた」を名乗る人物は見出せていない。

9 関係文献

新潟県教育委員会・財新潟県埋蔵文化財調査事業団『北陸新幹線関係発掘調査報告書V 大角地遺跡』(新潟県理蔵文化財調査報告書一七三 一〇〇六年)

(田中一穂・加藤 学)

1 所在地	新潟県糸魚川市大字田海
2 調査期間	一〇〇七年(平19)五月～七月
3 発掘機関	糸魚川市教育委員会
4 調査担当者	山岸洋一
5 遺跡の種類	集落跡
6 遺跡及び木簡出土遺構の概要	縄文時代～近世
7	

大角地遺跡は、田海川右岸に形成された山麓の台地（洪積段丘か沖積段丘かは不明）の標高5m前後に立地する。過去の調査において、

繩文時代前期・古墳時代中期・平安時代の堅穴住居が検出されており、当該期の集落跡として知られている。

繩文時代早・前期、弥生時代後期から古墳時代後期、平安時代、中世、近世に及ぶ複合遺跡である。

今回の調査はガス供給施

新潟・大角地遺跡 (2)

所在地 新潟県糸魚川市大字田海

調査期間 一〇〇七年(平19)五月～七月

発掘機関 糸魚川市教育委員会

調査担当者 山岸洋一

遺跡の種類 集落跡

遺跡及び木簡出土遺構の概要 縄文時代～近世



(糸魚川)